



## 世界のベストのポイント

# 「株式投資の王道」にこだわって世界のベストに厳選投資

日本を含む世界各国(エマージング国を除く)の株式の中から、独自の視点で厳選した世界のベストと考える銘柄に投資を行います。「成長」+「配当」+「割安」の3つの観点に着目して投資を行うことを、当ファンドでは「株式投資の王道」と考えています。

### 成長

高い競争優位性、健全な財務体質を有し、景気動向に左右されずに成長が期待できる企業に着目します



### 配当

継続的な配当や増配などの質の高い配当を行うことが期待できる企業に着目します



### 割安

企業の本質的価値に比べて、長期的視点から見た株価水準が割安であると判断する企業に着目します



運用責任者からのメッセージ動画やファンドの最新情報は、こちらでご覧いただけます。

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社のウェブサイトへつながります。

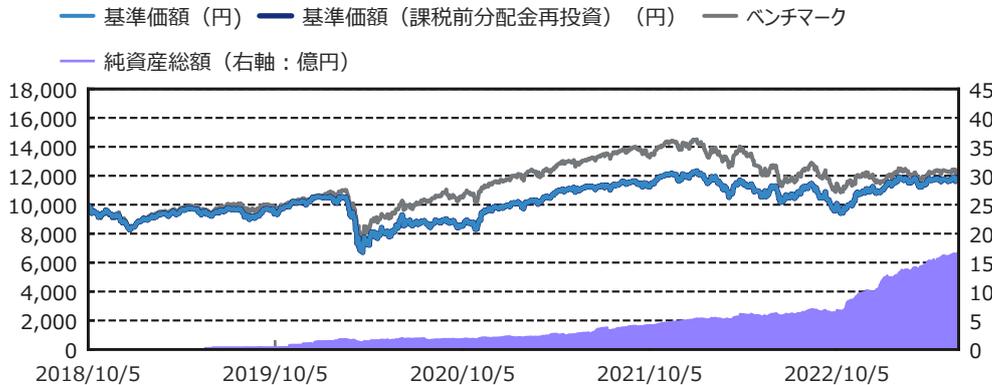


商品概要	設定日	2018年10月5日	信託期間	無期限	決算日	12月23日 (休業日の場合は翌営業日)
------	-----	------------	------	-----	-----	----------------------

**運用実績 <為替ヘッジあり>**

【過去の運用実績は、将来の運用成果を保証するものではありません。】

■ 基準価額の推移



※基準価額は信託報酬（後述の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。  
 ※ベンチマーク（MSCIワールド・インデックス（円ヘッジ指数））は、ファンドの設定日の前営業日を10,000として指数化しています。

■ 基準価額と純資産総額

純資産総額	1,706(百万円)
基準価額	11,769円
前月末比	+102円

■ 1万口当たり分配実績（課税前）

	分配金
第1期 (2018.12.25)	0円
第2期 (2019.12.23)	0円
第3期 (2020.12.23)	0円
第4期 (2021.12.23)	0円
第5期 (2022.12.23)	0円
第6期	-
設定来累計	0円

※分配金は投資信託説明書（交付目論見書）記載の「分配方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断等により分配を行わない場合もあります。

■ 為替ヘッジ比率

ヘッジ比率	99.1%
-------	-------

■ 騰落率（課税前分配金再投資ベース）

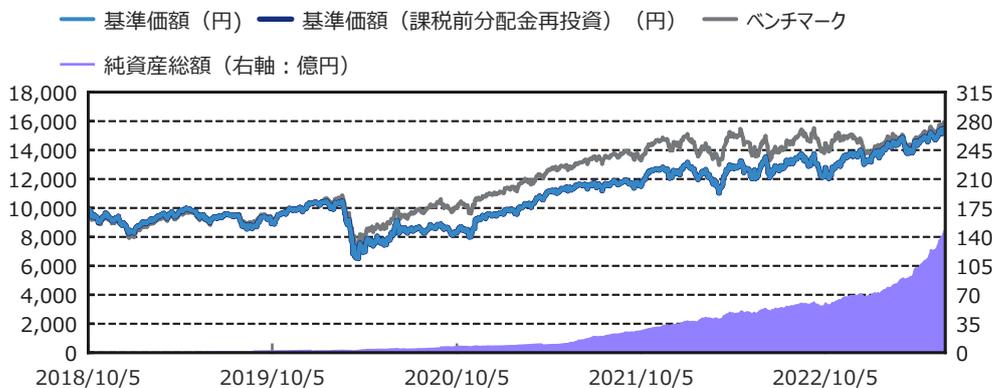
	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.87%	0.98%	8.21%	4.19%	37.70%	17.69%
ベンチマーク	0.66%	2.53%	3.34%	-2.73%	27.56%	23.67%

※基準価額の騰落率は、課税前分配金を再投資したと仮定した数値を用いています。

**運用実績 <為替ヘッジなし>**

【過去の運用実績は、将来の運用成果を保証するものではありません。】

■ 基準価額の推移



※基準価額は信託報酬（後述の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。  
 ※ベンチマーク（MSCIワールド・インデックス（円換算指数））は、基準日前営業日の数値を元に、基準日当日の米ドル為替レート（対顧客電信売買相場の仲値）を乗じ、ファンドの設定日の前営業日を10,000として指数化しています。

■ 基準価額と純資産総額

純資産総額	14,820(百万円)
基準価額	15,367円
前月末比	+644円

■ 1万口当たり分配実績（課税前）

	分配金
第1期 (2018.12.25)	0円
第2期 (2019.12.23)	0円
第3期 (2020.12.23)	0円
第4期 (2021.12.23)	0円
第5期 (2022.12.23)	0円
第6期	-
設定来累計	0円

※分配金は投資信託説明書（交付目論見書）記載の「分配方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断等により分配を行わない場合もあります。

■ 騰落率（課税前分配金再投資ベース）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	4.37%	5.12%	12.65%	18.23%	86.54%	53.67%
ベンチマーク	4.57%	6.44%	6.78%	9.44%	70.96%	58.07%

※基準価額の騰落率は、課税前分配金を再投資したと仮定した数値を用いています。

当資料ご利用の際は、最終頁の「ご留意いただきたい事項」をお読みください。

**お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。**

設定・運用：

**インベスコ・アセット・マネジメント**

【商号等】インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第306号

【加入協会】一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

## ポートフォリオの状況

【当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、マザーファンドのポートフォリオの状況を記載しています。】

### ■ 資産配分

	純資産比
外国株式	95.4%
国内株式	2.7%
現金等	1.9%

銘柄数	47
-----	----

※株式には、投資信託証券などが含まれています。

### ■ 組入上位5カ国

	国名	純資産比
1	アメリカ	45.3%
2	イギリス	15.4%
3	香港	6.2%
4	オランダ	6.1%
5	スイス	4.5%

※国名は、発行体の国籍（所在国）などで区分しています。

### ■ 組入上位5通貨

	通貨名	純資産比
1	米ドル	45.3%
2	ユーロ	16.3%
3	英ポンド	15.4%
4	香港ドル	6.2%
5	スイスフラン	4.5%

### ■ 組入上位11業種

	業種	純資産比
1	金融	23.4%
2	情報技術	16.3%
3	資本財・サービス	13.8%
4	生活必需品	12.0%
5	ヘルスケア	7.9%
6	不動産	6.4%
7	素材	6.3%
8	コミュニケーション・サービス	4.8%
9	一般消費財・サービス	4.4%
10	エネルギー	2.8%
11	公益事業	-

※業種はベンチマークで採用している分類に準じています。

### ■ 組入上位10銘柄

	銘柄名	国名	業種	純資産比
1	3iグループ	イギリス	金融	6.3%
2	ブロードコム	アメリカ	情報技術	5.2%
3	マイクロソフト	アメリカ	情報技術	4.7%
4	ペラルア	フランス	素材	4.2%
5	アメリカン・タワー	アメリカ	不動産	4.1%
6	友邦保険控股 (AIAグループ)	香港	金融	3.9%
7	ユナイテッドヘルス・グループ	アメリカ	ヘルスケア	3.6%
8	ユニオン・パシフィック	アメリカ	資本財・サービス	3.4%
9	ロイヤル・ユニプレュー	デンマーク	生活必需品	3.3%
10	アケルB P	ノルウェー	エネルギー	2.8%

※国名は、発行体の国籍（所在国）などで区分しています。

※業種はベンチマークで採用している分類に準じています。

## ポートフォリオの状況

【当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、マザーファンドのポートフォリオの状況を記載しています。】

### ■ 組入上位10銘柄のご紹介

銘柄名	会社の概要
1 3iグループ	英国の投資会社。プライベート・エクイティ事業では一般消費財・サービスやヘルスケア分野の企業、インフラ事業では欧州の企業を中心に投資を行う。優秀な経営陣やコスト管理能力を評価。また、高い利益率から安定した配当を維持していることや、投資している企業の成長性が高いことから今後も配当成長が期待できる。
2 ブロードコム	無線および通信インフラ向けの半導体製品、ソフトウェアなどを製造販売する米国の企業。通信機器用半導体チップ分野では強固な地位を誇る。高い利益率と強力なフリーキャッシュフロー創出力、積極的なソフトウェア事業における投資を評価。
3 マイクロソフト	米国の大手ソフトウェア・メーカー。「Windows」や「Office」などの主力製品を有し、クラウドプラットフォームも手掛ける。デジタル・トランスフォーメーションの加速の恩恵を受け、業績拡大が継続。付加価値の高いソフトウェアの開発を続ける中、長期に渡り利益成長を遂げ、増配も継続している点を評価。
4 ベラリア	世界で事業を展開する、フランスの大手容器メーカー。主に欧州のガス業界で、強固なポジションを確立。同社の健全な収益性やキャッシュフロー創出力から配当成長が期待できる点を評価。新型コロナウイルスの感染拡大の落ち着きによりレストランやサービス業が再開されている中で、更なる売上の増加や利益率の向上が見込まれる。
5 アメリカン・タワー	米国の不動産投資信託（REIT）。米国内でワイヤレス通信および放送用タワーの保有、運営、開発に従事する。参入障壁が高く、業界内で圧倒的な地位を確立している点を評価。今後、5Gの進展に伴うデータ通信量の増加により通信タワーへの需要が拡大することが見込まれ、更なる成長が期待できる。
6 友邦保険控股（AIAグループ）	100年の歴史を誇る香港の保険会社。香港、中国等アジア・パシフィック18ヶ国で、生命保険などを中心に事業展開する。同社の業界での強固なポジションや、長期に渡る高水準の増配実績を評価。今後、アジア各国の成長に伴い保険ニーズは高まる中で、成長が見込まれると判断。
7 ユナイテッドヘルス・グループ	米国で多角的なヘルスケア企業として事業を展開。医療保険やテクノロジーを駆使した医療情報を提供。同社の強固なポジションと競争優位性から、州の病院と保険適用での最良なレートを交渉、その交渉で得た利益を自社の保険契約者に還元し、ビジネスの好循環が生まれていると判断。潤沢なキャッシュフローから事業投資や買収を進めている点も評価。
8 ユニオン・パシフィック	米国の最大規模の貨物鉄道会社。米国内の主要な鉄道路線を所有し、独占的な地位を確立している。インフレにも対応ができ、ESGの観点からも二酸化炭素の排出量が少ないことを評価。トラック輸送価格の上昇による鉄道での貨物輸送の増加に伴い、今後も更なる成長が期待できる。
9 ロイヤル・ユニブリュー	デンマークの飲料メーカー。清涼飲料、ビールなどを取り扱う。主に欧州で自社のインフラを利用し、自社ブランドだけでなく他ブランドも展開。効果的なM & Aなど投資を行い、自社株買いや配当支払いなど株主還元姿勢が強い経営陣を評価。同社のブランド力から、着実に成長を遂げてきた実績についても評価。
10 アケルB P	ノルウェーの石油とガスの探鉱・生産会社。ノルウェー大陸棚の石油資源の探鉱・開発に注力する。競合他社に対して高い生産効率と低コストを実現することができる点を評価。ロシア以外のエネルギー需要の高まりから恩恵を受けることを見込む。

※国名は、発行体の国籍（所在国）などで区分しています。

※業種はベンチマークで採用している分類に準じています。

## ファンドマネージャーのコメント

### ■ 市場概況

①米国  
5月の米国株式市場は、市場によって異なる展開となりました。月初は、米地銀株が急落し、連鎖破綻への警戒感が高まったこと、パウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長が利上げ継続の可能性を示したことを受け、株式市場は軟調に推移しました。月央から月末にかけては、パウエル議長が利上げ停止の可能性を示唆したこと、AI関連の半導体需要増加から米半導体大手による強気な売上高見通しが好感されたこと、米債務上限問題を巡る協議が合意に達したことなどを背景に、株式市場は反発しました。月を通してみると、NYダウ工業株30種平均指数が下落した一方で、S & P 500種指数及びナスダック総合指数は上昇しました。

②欧州  
5月の欧州主要株式市場は下落しました。大陸欧州では、月初から月央にかけて、天然ガス価格が下落したこと、中国経済の拡大により欧州企業の収益が改善するとの見方が広がったことなどを好感し、株式市場は高値圏で推移しました。しかしながら、月後半には、高インフレに対する警戒感が強まったこと、5月のユーロ圏製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値が前月から低下したことなどを嫌気し、株式市場は反落して月末を迎えました。英国では、4月の消費者物価指数（CPI）の伸び率が市場予想を上回ったこと、イングランド銀行（BOE）による金融引き締め長期化が警戒されたことを受け、株式市場は下落しました。

③アジア  
5月のアジア主要株式市場は、市場によって異なる展開となりました。香港株式市場は、技術分野に関する米中間の紛争が激化し、貿易摩擦が拡大するとの懸念が高まったことなどが嫌気され、下落しました。オーストラリアでは、月初にオーストラリア準備銀行（RBA）が予想外の利上げを行なったこと、同行が労働市場のひっ迫と、サービス価格の高止まりを明らかにしたことなどが嫌気され、株式市場は下落しました。日本では、岸田首相が米台韓の半導体大手と面会し、半導体関連セクターが上昇したこと、海外投資家が日本株を買い越したことなどを背景に、株式市場は上昇しました。

### ■ 運用概況

AI関連の売上増加への期待が高まり株価が大幅に上昇した米国の大手半導体メーカーBROADCOMや、引き続き堅調な業績を背景に株価が上昇した英国の投資会社3i GROUPなどが、プラスに寄与しました。一方、無線通信インフラを提供する米国の不動産投資信託AMERICAN TOWERは、インフレ抑制を重視して各国中央銀行が利上げを続けるとの見方が広まったことが嫌気され、株価は下落、マイナスに寄与しました。また、香港の生命保険会社AIA GROUPも、中国景気の回復鈍化などが懸念されたことから株価は下落、マイナスに寄与しました。

5月は、4月に新規で購入した英国の日用品・医薬品メーカーRECKITT BENCKISER GROUPをポジション構築のため、追加で購入しました。また、米国の保険会社PROGRESSIVEやノルウェーの石油探査および開発会社AKER BPなどもバリュエーションが魅力的な水準となったことから、追加で購入しました。一方、株価が上昇したスイスの大手製薬会社NOVARTISやオランダの半導体メーカーBE SEMICONDUCTOR INDUSTRIESを、より魅力的な投資機会に資金を移すため、一部売却しました。

### ■ 今後の見通し（作成日現在のものであり、市場環境の変動などにより変更される場合があります。）

今後も、金利・インフレ動向、各中央銀行の金融政策、地政学リスクの台頭等を背景に金融市場の変動性が高まる可能性があります。米連邦準備制度理事会（FRB）をはじめとする各国の中央銀行による利上げの継続により、インフレは徐々に抑制され、2023年を通じて、金利は将来のインフレ低下を見込んで推移していくと見込んでいます。今までの大幅な利上げ、個人貯蓄の減少、銀行の貸出基準の厳格化などが、時間差で経済成長に影響を与える可能性があると考えており、株式市場は変動の激しい展開となると考えています。本年に入り、インフレ圧力の継続、各国での政策金利の利上げ、長期化するウクライナ紛争、金融システムへの懸念などを背景に、世界の主要株式市場の不透明感が高い状況が続いています。しかしながら、株式市場はかかる悪材料を織り込みながら、中長期的には上昇に転じると見ております。

当ファンドでは、経営陣の質、ビジネスの構造的優位性、財務健全性などの観点で魅力的な個別企業に注目しています。セクター配分はあくまで個別銘柄選択の結果ですが、主に金融、生活必需品をオーバーウェイト、主に情報技術、一般消費財・サービスをアンダーウェイトとしています。

## ファンドの特色

- 主としてマザーファンド※1 受益証券への投資を通じて、日本を含む世界各国（エマージング国を除く）の株式の中から、独自のバリュー・アプローチによりグローバル比較で見た割安銘柄を厳選し投資します。
  - ※1 ファンドが投資対象とするマザーファンドは、「インベスコ 世界先進国株式 マザーファンド」です。
- 銘柄選択にあたっては、独自の財務分析、経営力、ビジネス評価等ファンダメンタルズ分析と株価の適正水準評価等に基づくボトムアップ・アプローチにより行います。
- 為替変動リスクについて、対応の異なる2つのファンドがあります。
  - <為替ヘッジあり>では、実質外貨建資産について、原則として、対円での為替ヘッジを行うことにより、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。
  - <為替ヘッジなし>では、実質外貨建資産について、原則として、対円での為替ヘッジを行いません。
- <為替ヘッジあり>はMSCIワールド・インデックス（円ヘッジ指数）※2、<為替ヘッジなし>はMSCIワールド・インデックス（円換算指数）※2をベンチマーク※3とします。
  - ※2 ◇MSCIワールド・インデックス（円ヘッジ指数）とは、MSCI Inc.が算出する基準日のMSCIワールド・インデックス（円ヘッジ指数）の数値です。MSCIワールド・インデックス（円換算指数）とは、MSCI Inc.が算出する基準日前営業日のMSCIワールド・インデックス（米ドル指数）の数値を、委託会社が基準日当日の米ドル為替レート（対顧客電信売買相場の仲値）で独自に円換算したものです。
  - ◇MSCIワールド・インデックス（円ヘッジ指数）およびMSCIワールド・インデックス（米ドル指数）は、MSCI Inc.が算出する株式インデックス（指数）の一つです。MSCIインデックスは、MSCI Inc.の知的財産であり、MSCIはMSCI Inc.のサービスマークです。
  - ◇この情報はMSCI Inc.の営業秘密であり、またその著作権はMSCI Inc.に帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他あらゆる形態を用い、またはあらゆる情報保存、検索システムを用いて出版物、資料、データ等の全部または一部を複製・頒布・使用等することは禁じられています。
  - また、ここに掲載される全ての情報は、信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その確実性及び完結性をMSCI Inc.は何ら保証するものではありません。
  - ◇MSCIワールド・インデックスの構成国や構成銘柄等は、適宜見直しが行われます。したがって、ファンドの投資対象国および投資対象銘柄は事前の予告なく変更されることがあります。
  - ※3 ベンチマークとは、ファンドのパフォーマンス評価やポートフォリオのリスク管理を行う際の基準となる指標のことです。ファンドは、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を得ることを目的としていますが、ベンチマークを上回る投資成果をあげることを保証するものではありません。
- インベスコ・アセット・マネジメント・リミテッド（英国、オックスフォードシャー）に、マザーファンドの運用指図に関する権限を委託します。

## ファンドのリスク

**ファンドは預貯金とは異なり、投資元本は保証されているものではないため、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて受益者に帰属します。**

### 基準価額の変動要因

ファンドは実質的に国内外の株式など値動きのある有価証券等に投資しますので、以下のような要因により基準価額が変動し、損失を被ることがあります。

#### 価格変動リスク

**<株式>株価の下落は、基準価額の下落要因です。**

株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績や財務状況、市場の需給などを反映し、下落することがあります。

#### 信用リスク

**発行体や取引先の債務不履行等の発生は、基準価額の下落要因です。**

ファンドが投資する有価証券の発行体が債務不履行や倒産に陥った場合、または懸念される場合、当該有価証券の価格が大きく下落したり、投資資金を回収できなくなることがあります。また、投資する金融商品の取引先に債務不履行等が発生した場合に、損失が生じることがあります。

#### カントリー・リスク

**投資対象国・地域の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です。**

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の急激な変化や新たな取引規制が導入される場合などには、ファンドが投資する有価証券等の価格が下落したり、新たな投資や投資資金の回収ができなくなる可能性があります。

#### 為替変動リスク

**<為替ヘッジあり>為替の変動（円高）が基準価額に与える影響は限定的です。**

為替ヘッジ（原則としてフルヘッジ）を行い為替変動リスクの低減に努めますが、為替変動の影響を完全に排除できるとは限りません。また、円金利が為替ヘッジを行う通貨の金利より低い場合、当該通貨と円の金利差相当分のヘッジコストがかかります。

**<為替ヘッジなし>為替の変動（円高）は、基準価額の下落要因です。**

為替ヘッジを行わないため為替変動の影響を受けることになり、円高方向に変動した場合には外貨建資産の円での資産価値が下落します。

\* 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

## その他の留意点

### ベンチマークに関する留意点

ベンチマークは、今後、他の指数へ変更されることがあります。

当資料ご利用の際は、最終頁の「ご留意いただきたい事項」をお読みください。  
**お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。**

## お申し込みメモ

購入単位	お申し込みの販売会社にお問い合わせください。 * 分配金の受け取り方法により、「自動けいぞく投資コース」と「一般コース」の2コースがあります。
購入価額	購入の申込受付日の翌営業日の基準価額
換金価額	換金の申込受付日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として換金の申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
購入・換金申込不可日	—
申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時まで(販売会社所定の事務手続きが完了したもの)
換金制限	投資信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込には一定の制限を設ける場合があります。
信託期間	無期限 (設定日：2018年10月5日)
繰上償還	信託契約の一部解約により、<為替ヘッジあり>および<為替ヘッジなし>の受益権の総口数の合計が40億口を下回ることとなった場合などは、信託期間の途中で償還することがあります。
決算日	毎年12月23日 (ただし、同日が休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算日に分配方針に基づいて収益の分配を行います。 * 「自動けいぞく投資コース」でお申し込みの場合は、分配金は税引後無手数料で再投資されます。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。配当控除は適用されません。

## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入の申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が定める <b>3.30% (税抜3.00%) 以内</b> の率を乗じて得た額
信託財産留保額	換金の申込受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.30%</b> の率を乗じて得た額

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	日々の投資信託財産の純資産総額に <b>年率1.903% (税抜1.73%)</b> を乗じて得た額とします。運用管理費用(信託報酬)は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6カ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支弁します。
その他の費用・ 手数料	<ul style="list-style-type: none"> <li>組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用などは、実費を投資信託財産中から支払うものとします。これらの費用は運用状況などによって変動するため、事前に具体的な料率、金額、計算方法および支払時期を記載できません。</li> <li>監査費用、目論見書・運用報告書の印刷費用などは、投資信託財産の純資産総額に対して<b>年率0.11% (税抜0.10%) を上限</b>として、毎計算期間の最初の6カ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支払うものとします。</li> </ul>

\* 上記、ファンドの費用の合計額については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

**販売会社（投資信託説明書（目論見書）のご請求・お申し込み先）**

- 受益権の募集・販売の取り扱い、投資信託説明書（目論見書）の交付、運用報告書の交付代行、分配金・換金代金・償還金の支払いおよび分配金の再投資※に関する事務などを行います。  
 ※ 分配金を受け取るコースのみを取り扱う販売会社は当該業務を行いません。

金融商品取引業者等の名称		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業協会
アイザワ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3283号	○	○		
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
S M B C 日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社 S B I 証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社 SBI証券、マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
香川証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長(金商)第3号	○			
極東証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第65号	○			○
株式会社三十三銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第16号	○			
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第6号	○			
株式会社中国銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第2号	○		○	
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			○
株式会社鳥取銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第3号	○			
西日本シティ銀行証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第131号	○		○	○
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第20号	○			
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三津井証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第14号	○			
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○		○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			

■ 当ファンドの照会先

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社（受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで）  
 電話番号：03-6447-3100 ホームページ：https://www.invesco.com/jp/ja/

**【ご留意いただきたい事項】**

当資料は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できる情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。また過去の運用実績は、将来の運用成果を保証するものではありません。本文で詳述した当資料の分析は、一定の仮定に基づいたものであり、その結果の確実性を表明するものではありません。分析の際の仮定は変更されることもあり、それに伴い当初の分析の結果と重要な差異が生じる可能性もあります。投資信託は、株式などの値動きのある有価証券など（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。これらの運用による損益はすべてご投資家の皆さまに帰属します。投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関は投資者保護基金には加入していません。当ファンドの購入に関しては、クーリングオフ（金融商品取引法第37条の6の規定）制度の適用はありません。当ファンドの購入のお申し込みを行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時に販売会社でお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

**お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。**